

東海大学博物館だより

海のはくぶつかん



干支の生き物…シリキルリスズメダイ (雀鯛)

Vol.47 No.1

2017.1 冬号

C O N T E N T S

展 示	・干支の生き物 一酉—	富山晋一	2
イ ベ ント	・恐竜ナイトツアー	柴 正博	4
話 題	・写真を撮ろう！館内の撮影スポット	石橋忠信	6
話 題	・個性がキラリ！みんなが描いた想像の魚たち	富山晋一	7
INFORMATION			8

干支の生き物 とり 酉

富山 晋一
Shinichi TOMIYAMA

皆さん、明けましておめでとうございます。海洋科学博物館では、お正月の恒例展示として、その年の干支にちなんだ海の生き物をご紹介します。毎年、年末が近づいてくると、担当者はどのような生き物を展示しようかと図鑑や魚名辞典を見ながら頭を悩ませることになります。さて、2017年は酉年です。本来、酉は鶏のことですが、ここでは視野を広げて鳥の名をもつ海の生き物を探してみました。

■スズメダイ

お察しの通り、漢字で書くと「雀鯛」です。スズメダイは鳥のスズメ（雀）と同じように丸みを帯びた体形と茶色っぽい体色で、互いによく似ているようにも見えます。しかし、雀とはもともと古語で小さいことを意味する「すす」と、群れを意味する「め」に由来しているそうです。となると、雀鯛とは「小さくて群れる魚」ということになり、事実スズメダイは小さく、群れで生活します。雀の意味までたどると、スズメダイの名が鳥由来



写真1. スズメダイ科の魚 上) スズメダイ 下) ソラスズメダイ

とはどうも言えない雰囲気ですが、鳥のスズメと同じ着想で名づけられたと考えて、干支の生き物に認定です。

ところで、日本にはスズメダイの仲間が他に100種以上いて、これらのうちオヤビッチャなどを除くほとんどの種に「～スズメダイ」という和名がついています。さらに、世界に目を向けるとスズメダイの仲間は約400種もあり、すべてまとめてスズメダイ科というグループを構成しています。海のスズメはとんでもなく多様なのです。

■タカノハダイ

この魚が鳥とどう関係しているのかピンとこないかもしれませんが、漢字で「鷹之羽鯛」と書けばもうお分かりだと思います。タカノハダイという和名は、体の模様が鷹の羽の模様とよく似ていることに由来します。

私はずいぶん昔にタカノハダイを食べておいしかったと記憶していますが、ときどき図鑑などにズバッと「ますい」と書かれていたりしてショックです。どうも、獲



写真2. タカノハダイ科の魚 上) タカノハダイ 下) ミギマキ

れる時期や処理の仕方などで随分と味が違うようです。

タカノハダイ科の魚は、日本にはタカノハダイ、ユウダチタカノハ、そしてミギマキの3種がすんでいます。これら3種はいずれも似たような模様を持ちながら、2種はきれいな鷹の羽に例えられ、もう1種はただ巻いているだけとは…。ミギマキがふびんに思えるのは私だけでしょうか？

■ブダイ

ブダイは漢字で「武鯛」などと書きます。…？鳥とは関係なさそうです。では、趣向を変えてブダイの英名は—Japanese parrotfish。ありました。Parrot=オウムです。日本のオウム魚。ブダイを含むブダイ科の魚を、英語でProttofishと呼びます。その理由は、ブダイ科の魚の顔をみればすぐに分かります。多くの種で歯がくっついて、オウムのくちばしのような歯板を形成しているのです。なるほどね。でも実は落とし穴が。ブダイ科の一部の種では十分に歯がくっついておらず、歯板



写真3. ブダイ科の魚 上) ブダイ 下) アオブダイ

がありません。最初に紹介したブダイも、実際にはくちばしをもたないオウム魚なのです。

■イサキ

漢字で「伊佐木」などと書く他に、中国名の鶏魚を当ててイサキと読みます。また、英名はChicken gruntで、やはり鶏です。ようやく大本命の鶏が登場ですが、なぜイサキが鶏なのか？はっきりとは分かりませんが、背びれを鶏のトサカに見立てたとする説もあるようです。

ところで、英名のgruntとはイサキ科の魚のことで、同時に豚のブーブーという鳴き声のことでもあります。イサキ科の魚を捕まえると浮袋を鳴らすことが、英名の由来のようです。しかし、少なくともイサキは、これまで当館で扱っていて鳴くのを聞いたことがありません。

イサキについて話題をもう一つ。イサキの地方名に猪の子どもを意味するウリボウがあります。本種の幼魚は背に白い縞模様をもち、それが猪の子の模様とよく似ているためです。酉年から数えて2年後の亥年には、干支の生き物として再び注目を集めることでしょう。



写真4. イサキ

ここまで、何種かの海の鳥をご紹介してきました。しかし、これら以外にも海の鳥はたくさんいます。皆さんも、おめたい海の鳥を探してみたいかたがでしょうか。

また、海洋科学博物館では1月1日から9日まで「干支の生き物～酉～」の展示を行っていますので、ぜひご来館ください。

恐竜ナイトツアー

柴 正博

Masahiro SHIBA

「夜の博物館で恐竜が動き出す！」これは、東海大学自然史博物館で行っている『恐竜ナイトツアー』のキャッチフレーズです。このイベントは春・夏休みやゴールデンウィークなどに、閉館後の自然史博物館を利用して開催します。定員は100名で、参加希望者には事前に電話で予約していただけます。

参加者は午後5時45分までに博物館に集合し、その後、学芸員が3階の恐竜ホールにあるタルボサウルスの骨格標本の前までご案内します。そこで、恐竜全般、それから特にモンゴルの恐竜について、スライドをご覧いただきながら10分ほど解説します。



写真1 恐竜の話に聞き入る参加者

解説後は、いよいよ『恐竜ナイトツアー』の見せ場です。ホールを消灯し真っ暗にしてから、学芸員が「これから恐竜を動かします。」と言って、懐中電灯の光を恐竜の骨格にあてます。すると天井に恐竜骨格の影が現れ、さらに、懐中電灯を動かすと同時に影も動きだします。学芸員が次々と骨格に光をあてるたびに、大きなディプロドクスがホールを闊歩し、翼竜が飛び回ります。参加者の皆さんは、それが影であることは分かっているものの、その動きに目をみはり、さも恐竜が活着しているような様子に驚嘆します。ひと通り恐竜を動かした後、学芸員は各恐竜の骨格の様々な部位に光をあてて、その特徴などを説明します。

自然史博物館の建物は、元々は人体科学博物館として1973年に建築されました。この建物は、1922年に東京大手町に建築された旧東京中央郵便局を復元したもので、アーチ状の外周壁柱が縦に並んだ構造のために、3階のホールは天井が高くて広い無柱空間となっていま

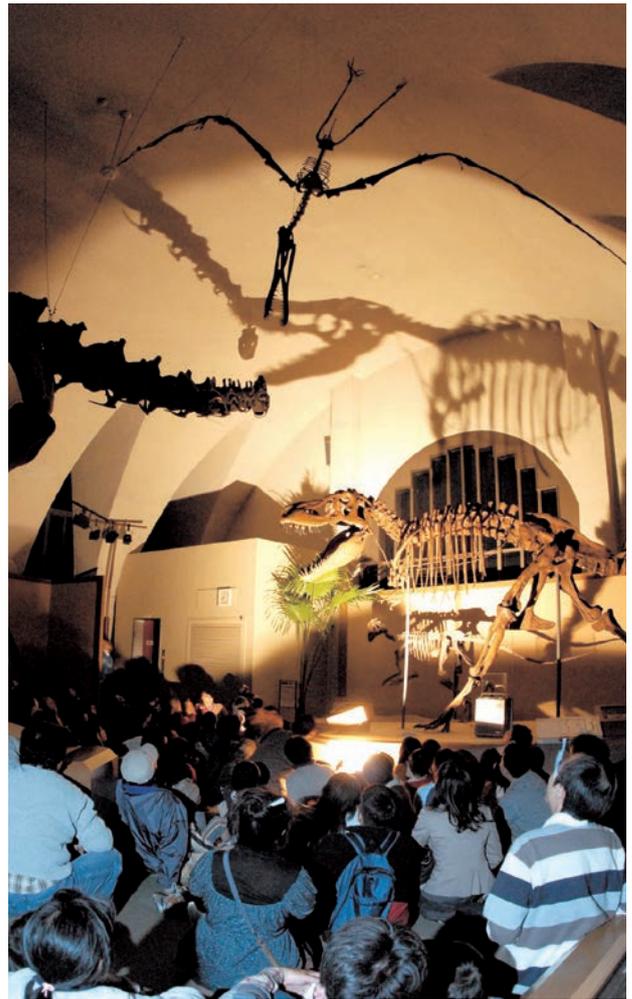


写真2 ホールの天井に映し出された巨大な影

す。そのため、恐竜骨格に懐中電灯で光をあてると、その影を他の構造物にじゃまされることなくアーチ状の天井や壁面に大きく投影することができるのです。

骨格の説明のあと、今度はステゴサウルス、トリケラトプス、タルボサウルスそしてデイノニクスの骨格が真っ暗な恐竜ホールで光りはじめます。ステゴサウルスは赤く、トリケラトプスは青く、タルボサウルスとデイノニクスは緑になります。これは、恐竜骨格にそれぞれの色の蛍光塗料が塗られていて、近くにセットしてあるブラックライトを点灯することにより発色する仕掛けです。真っ暗なホールに蛍光色で浮かびあがった恐竜の姿はとても幻想的です。そんな中、今度は蛍光塗料で塗られた翼竜の模型が長い竿の先につるされて飛び回り、同じく蛍光塗料で塗られたタルボサウルスとトリケラトプスの着ぐるみも歩きまわり、参加者の笑いをさそいます。最後には、恐竜ホールにミラーボールで光のイルミネーションを投影します。恐竜の骨格と光のイルミネーションの組み合わせは、昼間の博物館とはまったく違った雰囲気的空間をつくりだします。これをもって、『恐竜ナイトツアー』の前半部が終了し、後半部では午後7時までの約30分間を参加者が暗い館内を自由に探索しながらめぐります。

自由探索している参加者の様子を見ると、暗くなった博物館の中でよく見えないにもかかわらず、昼間の博物館の観覧者より入念に展示物やパネルを懐中電灯で照らしてご覧になっています。また、自分でも恐竜骨格の影を動かして楽しんでいます。参加者の中には、学芸員に質問をする方もいて、学芸員はていねいにその質問に



写真3 暗闇で幻想的に光る恐竜たち

答えます。

『恐竜ナイトツアー』は、2007年3月に公開された映画『ナイトミュージアム』（20世紀フォックス）とタイアップして始めた自然史博物館独自のイベントです。そのため、元々は『ナイトミュージアム』というイベント名でしたが、映画の公開が終了して以降は、その名称が使用できないことから、『恐竜ナイトツアー』に変更しました。

2007年以降、自然史博物館ではイベント内容を毎年工夫して、より良いものへとしてきました。そのかいもあり、『恐竜ナイトツアー』はとても好評で、夏休み期間中は定員を上回る応募者があります。また、キャンセルもほとんどありません。そこで、昨年から9月の連休にも開催しています。参加者した皆さんは、お帰りの時には楽しい時間を過ごしたことを私たちに伝えてくださいます。

『恐竜ナイトツアー』は、なぜこのように好評を博しているのでしょうか。参加者の多くは子ども達とその両親または祖父母という構成の家族で、参加した理由の多くは、恐竜が大好きな子ども達の希望や、子ども達と一緒に楽しみたいという家族の希望であると考えられます。また、照明が消えた夜の博物館で「何か起こるかも知れない」という大きな期待感をもち、それを家族みんなで味わうことも、このイベントに参加する動機のひとつと考えられます。実際、『恐竜ナイトツアー』の解説や影絵、骨格の発光、動く着ぐるみの恐竜などの内容は、展示物が置いてあるだけの昼間の博物館では体験できないことです。これらの特別な内容によって参加者の歓声や喜びの感想を聞くことができたことから、参加者の期待感を満足させられたことがうかがえます。

東海大学自然史博物館の『恐竜ナイトツアー』がこれまで多くの方に愛され続けてきたのは、ご紹介したようなエンターテイメント的要素を学芸員がチームとなって企画し、毎年ひとつは新しい内容を追加してきたことが大きいと考えています。この点において、『恐竜ナイトツアー』は、今までなかった新しい博物館の楽しみかた、展示物の見せかたを提示したのかもしれない。今後はこの経験をヒントに、多くの人たちがより親しめて、より知的好奇心をかき立てる博物館の展示やイベントを考えていきたいと思います。

写真を撮ろう！館内の撮影スポット

石橋 忠信
Tadanobu ISHIBASHI

明けましておめでとうございます。ご家族そろってのお出かけは楽しいものですね。記念の写真もたくさん撮って思い出を残してください。

ここでは、そんな写真が撮れる館内でのオススメ撮影スポットをご紹介します。



まず海洋科学博物館では、玄関から入ってすぐの場所に『お正月顔出しパネル』があります（2017年1月1日～9日）。パネルの後ろから顔を出すと、干支の生き物に早変わり。お友達に出す年賀状には間に合わないかも知れませんが、ご家族の来館記念として、ここで忘れずにシャッターを切ってください。大きな海洋水槽やリュウグウノツカイの標本など、皆さんの大きさと比べられる写真なども楽しいと思います。

2階のマリンサイエンスホールへ行くとオス・メスが揃ったメガマウスザメや、ピグミーシロナガスクジラの骨格など全体が入りきらないサイズの標本もありますが、どんどん写真に撮りましょう。



また、小さなお子さんは玄関の「クマノミ・キッズ」でクマノミの着ぐるみや作業服でのコスプレを、2階「うみの研究室」では、白衣をまもって博士コスプレなどもお楽しみください。

自然史博物館では、お正月の期間中に3階の恐竜ホールで「恐竜迫力撮影会」として、タルボサウルスの口元に近付いて写真が撮れるイベントを開催しています（2017年1月1日～5日）。



展示場に階段の付いた台があって、タルボサウルスの頭骨近くまで登ることができます。それを下から撮影すると…『恐竜に食べられちゃう写真』のできあがりです。ただし、台に登れるのはお子様限定なので、大人の方はカメラマンとして楽しい写真を撮ってあげてください。



加えて、自然史博物館には2階のケナガマンモス前の床にオススメ撮影スポットマークが付けてありますので、ここでも記念撮影をお楽しみください。また、マーク以外の場所でも思い出になる写真を撮ってみてください。

最近のスマホやデジカメには、パノラマやVR（バーチャリアリティ）など楽しい写真が撮れる機能がありますから、普通の記念写真だけでなく、くまのみ水族館のリング水槽の中からグルッとパノラマで撮ってみたり、思いっきり楽しい写真も狙ってお友だちにも見せてあげてください。



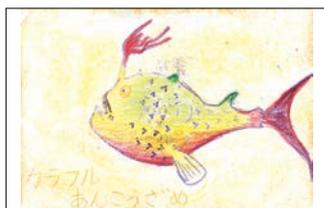
お帰りになる時には、ちょっと博物館の裏にある海岸に出てみて下さい。この季節ですと、海の向こう側に美しい富士山が見えると思います。「一富士、二鷹、三なすび」と呼ばれ、おめでたい物の代表ですから、ぜひ新春の富士山もカメラに収めて、今年も良い一年をお過ごしください。

それでは、本年も宜しく願い申し上げます。

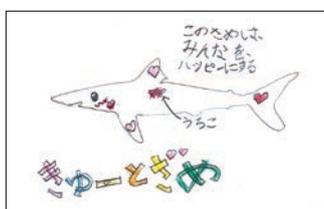
個性がキラリ！みんなが描いた想像の魚たち

富山 晋一
Shinichi TOMIYAMA

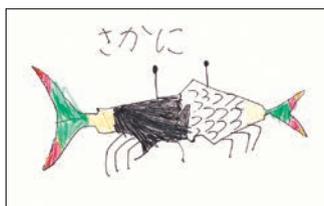
2016年の特別展「駿河湾 おさかな博覧会」では、来場者の方が自由に想像の魚を描き、会場に展示するコーナーを設けました。当初は子ども向けと想定していたこの企画、実際には大人もはまる盛況ぶりです。期間中に9,607枚もの作品が寄せられました。力作も多く、博物館の職員も皆さんの想像力に驚きつつ、楽しんで拝見させていただきました。今回は、本誌の編集委員たちの目に留まったいくつかの作品をご紹介します。



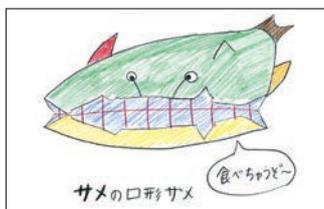
← サメとチョウチンアンコウの組み合わせが斬新！名前（カラフルあんこうぞめ）にある通り、カラフルできれいです。



← 名前（きゅーとぞめ）と解説文にキュンとしました。



← カニ？と思いきや、右半身と左半身がちゃんとサカナしてます。



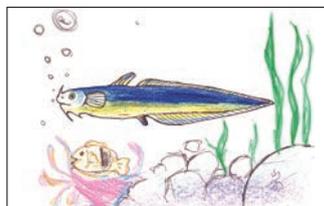
← すごい発想！こんな魚に会ってみたいな。



← 3種の組み合わせがユニークで、プロポーションも自然。名前（ちょうちんめがまうすのつかい）も秀逸です。



← しっぽのスピードが特徴的。飛べるのかな？



← 体からヒレにかけての色がステキ。



← しっぽがなんとドット柄。本当にいたらおもしろいですね。



← サンゴ礁魚類のような色使いがかわいいです。



← 雌雄を考えたところがすごい。それにしても雄はグロテスクすぎます…。



いかがですか？本当は、まだまだすばらしい作品があるのですが、紙面の都合でわずかしかご紹介できないのが残念です。最後に、想像の魚を描いていただいた来館者の皆さんにこの場を借りてお礼申し上げます。

海洋科学博物館・自然史博物館

INFORMATION

2017年の干支は、
～酉（トリ）～！！

海洋科学博物館のイベント 「干支の生き物 一酉一」

1月1日（日・祝）～9日（月・祝）



スズメダイの仲間たち
※写真はイメージです

海洋科学博物館では、酉にちなんだ、海の生き物をご紹介します。
今年の展示は、「スズメダイ（雀鯛）」の仲間など。何が展示されるのか、お楽しみに！
新年らしい、おめでたい展示を、ぜひご覧ください！

自然史博物館のイベント 「干支の化石 一酉一」

1月1日（日・祝）～9日（月・祝）



孔子鳥
学名 Confuciusornis dui

自然史博物館でも、酉に関する化石などを展示します。
孔子鳥は鳥の祖先！鳥と恐竜ってどんな関係があるの？
新年から、遠い遠い古代ロマン旅へタイムスリップしてみませんか？

大好評！「恐竜迫力撮影会」

1月1日（日・祝）～5日（木） 11時～15時



アジア最強と言われる
タルボサウルスだよ！
食べられちゃうぞ～の
ナイスショットを狙っちゃおう！



「化石クリーニング体験」(有料500円/個)

1月1日（日・祝）～5日（木） 10時～12時、13時～15時

本物のサメの歯化石を発掘！

大きい歯化石を見つけたら……大当たり!? 新春運試し！



★2017カレンダープレゼント★ 1月1日（日・祝）～5日（木）

各館にて先着100名様に博物館の
オリジナルカレンダーをプレゼントします。



お問い合わせ：TEL.054-334-2385
ホームページ <http://www.muse-tokai.jp/>
海洋科学博物館公式スタッフブログ絶賛！公開中！

